

# いぬがわか

Ⅲ

2013

No. 166

東京都世田谷区歯科医師会会報  
<http://www.setagaya-da.or.jp/>



## 東南アジア旅行の知的楽しみ方 「インド化」された国々へ 遺跡の旅—X X X VIII

下馬部会 齋藤賢一

今回は瀬戸内広島県、岡山県の磨崖仏を見学したいと思います。この地方の磨崖仏は桃山時代から江戸時代に造られたものですが、とても個性があり意匠も面白いものが沢山あります。今回の旅は広島県の竹原市と三原市から始まります。

この両市にまたがる白滝山（三原市）から黒滝山（竹原市）にかけてのハイキングコースに磨崖仏があります。出発は白滝山の山頂付近にある龍泉寺からです。白滝山は標高340mの山で、龍泉寺の駐車場から10分ほどで龍泉寺に着きます。本堂の裏に奥の院への参道があります。ここからさらに15分登ると巨大な岩が現れます。これが山頂の八畳岩でここに釈迦三尊と十六善神が彫られています。山頂は素晴らしい眺めで



写-1 「山頂からの風景」白滝山三原



写-2 「釈迦三尊」白滝山三原

正面には瀬戸内海の大三島や生口島が見渡せま  
す（写-1）。最初に現れるのが釈迦三尊です。中尊の釈迦如来は雲に乗った坐像で脇侍は迦葉と阿難の十大弟子です（写-2）。そして右に十六善神が玄奘三蔵と深沙大将を取り囲むように9体、他



写-3 「玄奘三蔵」白滝山三原

の面に5体と2体彫られています。十六善神とは夜叉や鬼ですがひとたび仏の教えを聴いて改心し、善心を起こして三宝に帰依した者達です。そして般若経



写-4 「深沙大将」白滝山三原

を唱える者を守護するのです。十六善神の石像は珍しく、玄奘もほとんど見かけません。玄奘は旅の恰好をしており十六善神は玄奘を守護するように彫刻されています（写-3）。十六善神のうち深沙大将は玄奘が天竺に赴いた時に流砂をわたる



写-5 「三十三観音」黒滝山竹原

のを助け、西遊記では沙悟浄となりました(写-4)。十六善神の彫刻は等身大の半肉彫の像でとても表情が豊かで確かな技術と意匠を持った石工によって彫られたことは疑いがありません。釈迦三尊は江戸時代、十六善神は室町時代

と伝えられています。八畳岩で休息を取り尾根を伝って隣の黒滝山へ向かいます。遊歩道として整備されており、自然林の中をときおり瀬戸内海が見え隠れしてとても楽しいコースです。約40分で270mの黒滝山の頂上付近に着きます。黒滝山は登山道に沿って西国三十三観音磨崖仏が彫られています。白滝山の彫刻に比べると造形的にかなり劣りますが信仰のエネルギーを感じます。特に山頂付近の磨崖仏が良い出来です(写-5)。こ

こも景色が素晴らしく麓の忠海の町から瀬戸内海の島々、四国の山まで見渡せます。磨崖仏を見学しながら下って行きますとなかなか出来のよい十三仏がありました(写-6)。

登山口まで下り三原港へ行きます。どうして三原港へ行くか



写-6 「十三仏」黒滝山竹原

と言いますと三原港からフェリーで35分のところにある佐木島へ渡るためです。佐木島の向田港に磨崖和霊石地藏という大きな岩に彫った地藏があり潮の満ち引きによって海中に胸まで水没するのです(写-7 a, b)。1300年に平茂盛と関係者70人が造立に関わり、仏師念心が彫ったということが像の左側にある銘文にかかれています。地藏は素晴らしい出来で両側の宝瓶に活けた三茎蓮花は珍しいものです。フェリーで三原港に戻り尾道へ行きます。

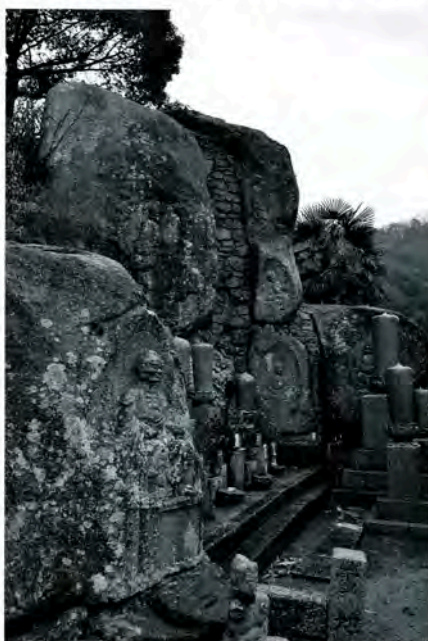


写-7 a, b 「磨崖和霊石地藏」佐木島向田

尾道はとても情緒がある町で林芙美子や志賀直哉、中村憲吉などが居住し、小津安二郎や大林宣彦の映画でも有名です。土地が狭く山が迫っているので道は細くほとんど坂です。道を知らないと、いたる所行き止まりで大変です。済法寺もそんな道の突き当たりであり、裏は墓地があり山です。この裏の墓地には岩がいたるところ露出していて、そこに釈迦如来を頂点として十六羅漢が彫られています(写-8)。十六羅漢とは釈迦の命によりこの世に長くいて正法を守り、衆生

を導く修行者のことで、表情豊かに素晴らしいノミ捌きで彫られています。

浄土寺奥の院は浄土寺の裏山ですが結構きつい登りが続きます。山頂付近の大きな岩に約4mの不動明王が薄肉彫されています(写-9)。とても愛嬌のあるお不動



写-8 「十六羅漢」済法寺尾道

さんです。浄土寺は聖徳太子の創建と伝えられる古刹で本堂、多宝塔は国宝、石塔など重要文化財もあります。

尾道から瀬戸内しまなみ海道を通って因島へ渡ります。因島は村上水軍の島として有名ですが因島にも三原と同じ名前の白滝山があります。15世紀の初め村上水軍の村上吉充により山頂の観音堂が建設され、文政年間（江戸時代後期）に因島の柏原伝六（一観）とその弟子達により700体の石仏が作られ安置されました。伝六は神道、仏教、キリスト教、儒教の宗教を融合して共通理念を作り「一観教」を編み出しました。従ってここの石仏は宗教にとらわれない自由奔放な表現のユニークな石仏なのです。山頂には阿弥陀三尊、釈迦三尊、伝六夫婦像、五百羅漢、烏天狗、十字架を刻む観音磨崖仏など様々な石仏が安置されています（写-10、11）。ここも瀬戸内海が一望です。

もし興味があれば隣の生口島にある平山郁夫美術館をお勧めします。私の敬愛する平山画伯の誕生の地に



写-10 「釈迦三尊」白滝山因島



写-9 「不動明王」浄土寺奥の院尾道



写-11 「十字架観音」白滝山因島

陶板画が展示されており感激します（写-12）。生口島には国宝の向上寺三重塔もあります。小さいながらとても優れた意匠の塔です。



写-12 「仏教伝来」平山郁夫美術館生口島

古墳時代、大和や筑紫とともに栄えた吉備王国の地である岡山県南部は平野部と小さな山々が連なる小丘陵からなっています。それらの山々には神社や寺院が多くあり、山そのものや巨石巨岩が磐座として信仰の対象になっています。岡山市から倉敷市、総社市、真備町にかけての山々も信仰の対象でいくつかの山には磐座信仰と毘沙門天信仰が結びつき、巨岩に毘沙門天が彫られています。

鷲峰山は矢掛町と真備町の町境にある360mの山でこの山の中腹に棒澤寺跡があります。棒澤寺は真言宗

御室派の古刹で8坊を擁する大寺院でありましたが近年の大火でほとんどを焼失してしまいました。さらに檀家のない修行の寺院のため、此処に着くまで相当山道を歩かなくてはならないので現在訪れる人もなく、僅かに残る崩壊寸前の堂、山門、庫裏は荒れ放題です。裏に山頂までの参道がありますが倒木が至る所にあり道もひどい状態でとても登りづらい山です。約15分ほどで大きな岩が重なった岩場があり、岩場の奥に

毘沙門天磨崖仏が見えます。左手に宝塔、右手に宝棒を持ち、甲冑の装飾などとても細かいところまで精緻に彫り込んだ写実的な像です(写-13)。

石鎚山は真備町石田の集落に立つ小山です。集落のはずれに登山道があります。登山道は集落の人達によって整備されていますが、とても勾配がきつく至る所にロープが張られています。ロープに頼りながら10分程度で巨石が見えてきます。この南面に毘沙門天が彫られており、ベンガラによる色彩も残っています(写-14)。邪鬼を踏



写-13 「毘沙門天」 鷲峰山矢掛町



写-14 「毘沙門天」 石鎚山倉敷市



写-15 「毘沙門天」 日差山倉敷市

また毘沙門天は迫力があり、細かいところまでよく表現されています。備前の毘沙門天の中では鷲峰山と共に白眉の像です。像の前は視界が開け小田川と呉妹の集落を見下ろせます。日差山は倉敷市山地にあり、ここは高松城水攻めのときに毛利方の小早川隆影が本陣を置いた山で、山頂付近に日差山寺があります。山頂には花崗岩の巨石が沢山あり、日差山寺のすぐ裏も巨石でそこに毘沙門天が彫られています(写-15)。残念なことに近年の火災で保存状態はあまり良くありません。兜の部分が大きく邪鬼を踏まえ、右手で邪鬼の片足を抱えている像はなかなかのものです。

庚申山は岡山市新庄上にあり、高松城水攻めのときに毛利方の吉川元春が本陣を構えた丘陵で山頂に帝釈堂(庚申堂)があります。参道から300段ほどの階段を上ると帝釈堂に着きます。その裏側は花崗岩の巨石が連なり反対側あたりの岩面に毘沙門天が彫られています(写-16)。すぐ前に



写-16 「毘沙門天」 庚申山岡山市

は簡単な礼堂がつくられてここから拝むようになって  
います。構図は日差山毘沙門天とほとんど同じで日差  
山をモデルにしたものと思われます。

毘沙門天はインドではクベーラ神とも言われ富と財  
宝の神として北方を守っています。毘沙門天はサンス  
クリット語でヴァイシュラヴァナ（ビシュラバナ）と  
表記しこの音写が中国でビシャモンとなりました。ヴ  
ァイシュラヴァナの意味は「すべてを良く聞く」とい  
うことから四天王の多聞天になりました。日本では四  
天王の一尊として安置される場合には多聞天として、  
独尊像として安置される場合には毘沙門天と呼びま  
す。本来財宝神でありましたが中国に伝わって武神と

なり、甲冑を身に着けるようになったと思われます。  
日本に伝わり戦闘の神として武人に好まれたのでしょ  
う。戦国時代後期から江戸時代にかけて武運の守護と  
して造られたようです。

今回訪れた磨崖仏はいずれも山の上に露出した花崗  
岩の巨岩に彫刻されています。たどり着くのは大変で  
すが、磨崖仏と対面した時感じる当時の人々の宗教に  
対するエネルギーは、とても熱く、周囲の景色と同化  
して見るものをとても幸せな気分にしてくれます。ぜ  
ひ旅行の日程に一日組み込んで下さい。とても素晴ら  
しい思い出になること必至です。

